宇津保物語

九

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

宇津保物語

祭の使

七

今板本十二の巻

古本八の巻

830
107

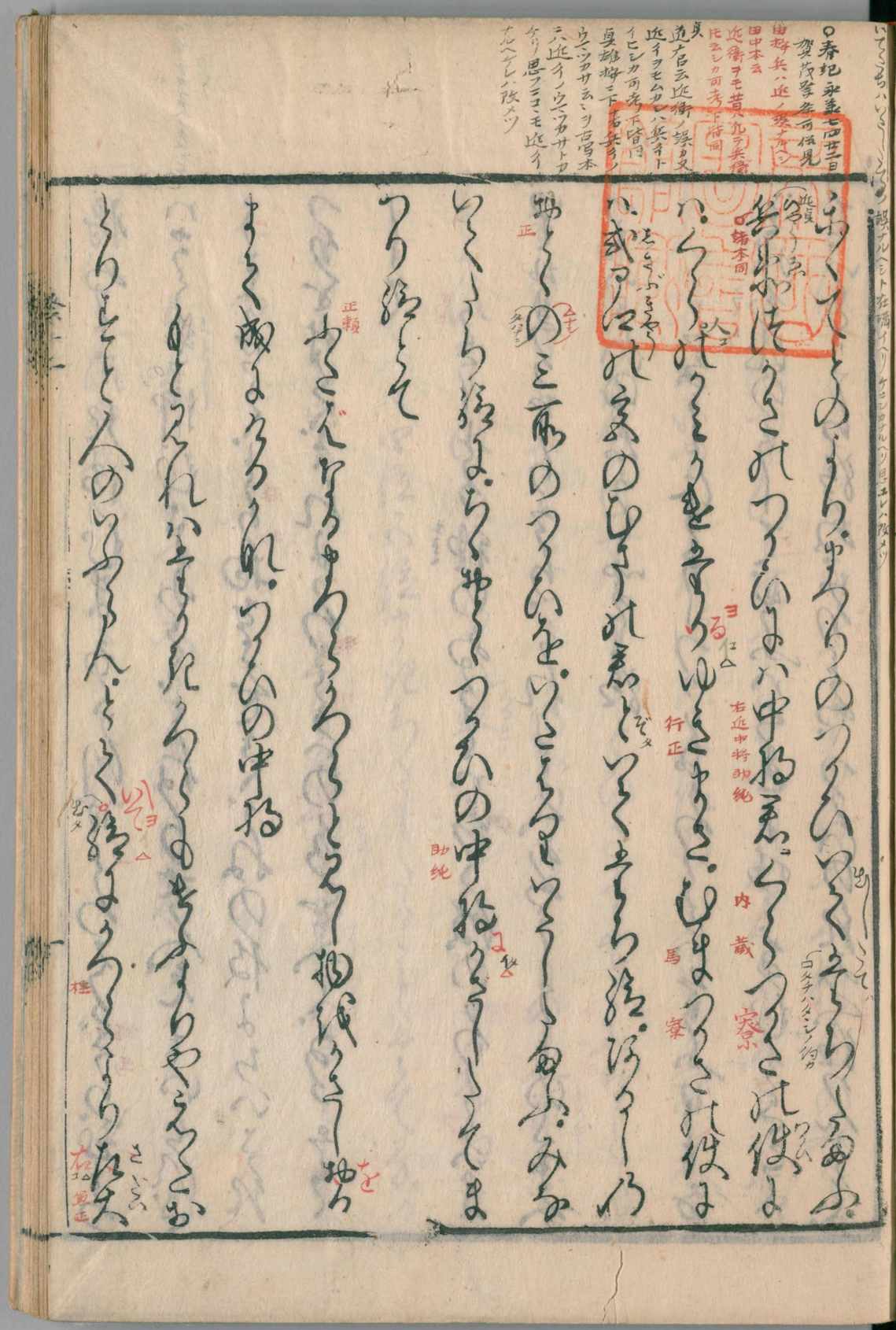
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

宇津の物語

巻九

大正
4. 7. 20
購求



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

四 勧働ミテカケヲ人ノタメニヒカレシ馬ナリ

将ぬしの所むまあるに。四一ろそぐ。餞馬
いかうまの。所むまのくらねりて人えまいらせ
うそくせくとり物を。せうそくねの後よりいれ
つかをけくそれよりうしの。をへてかうそく
して

定正
くさとり神のあるいそぐ後のうしふよ
つを物をとりうしろ。それよりえんやしうとのまへ
つを。つしの思うく。常し給

助純
ゆうそくにうつるうへ。人日をを
それ。飛のうして。きふいうきよりちをむしてこ
て。いくさう給ぬ。桂りうや。つしのれみ給へんとて。

正頼卿

四 供人陰陽ニ手アリトイフアリ
手振
春記 寛和二年七月廿二

賀茂登運表 紀淵

ろ後十ろうくいてうろ給ぬ人。猪毎のみるこ
れ。ゆくにつしを。三イ。而つきのうり。ろん。四イ。
ろんさうめいつうろ。正位。ゆ位あるせくろ年へ
ろうあり。地りむ世。馬。さどとひきそそぐ。手。
きろうまうきろ。一てうの地りうよりの人車ど
もくにそ。ミチ。後の地りん。車。ものたちうろと
をうそつ。正位ゆ位ゆうれうくしうこうそそ。梢。
くてそかりうんしてうろ給。つ。
えのうり
とし年うつむつきまの。
つにくうあるいいとうそし給

曾丹集 源義朝公ウヒメツ山ヲサトシラハコノヘヲイテテキクヘキモノヲ
恵慶集 山里ノ人モナカケ今日シレハ誘ノカヒシノ笠ニウヒメフ
葉 サミウケフナムラビテチシハヘルシモト

きいの宰相やしいろいよいよそのこまは
さぐ名ん。ゑ。ろとわの給とたてらせ。ゑ。
せらよのさまひきれいらろ。ゑ。てゆ。
とひせてゑ。ゑ。ゑ。酒いゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
を学ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
わ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ

めるとゆくいとみのそんあてよらうんてな紙
こそ手のえをこいてらふとあて文
あさんのいふよつをくそ文てうもうを紙
とゆりのいろうるく平中納言
正明 いつてもをりをを物紙はるる多とこのむ
はいてくこれ。あく文
ふりるれをこの紙このあをやはるる多をこの紙
はくもををうん。ゆうくうをこの多よくく紙
つけくこてゆうる
風巻五 ふしのをれ雪をのをけうをもはるをしを
ゆのところうるひしをこゆりているるんとをこえ

ヒトカト同ニツノ(キキトノ音ナリ
古今集 六帯
アノ山ヨモカノモヲケヲトト
天カヲミカヲミニスカケ(ナシ

うう。あく文
このををうるれつをとをこもわつたま
川をこんをこそみをこいふりなんをこをこみく
こを雪をまつうこのうふのあをあけれ雪れ涼
りこうこいをこをいをるを紙こうこうをせこ
ま人をこいをりんをるく地風をこそれいおるうるみうに
をこあるをこうこてくゆ雪しこてゆうる
ゆりつるおいくをこうをはをこねのをはくを
ふしこるをくをこうをこんふ川はあをまくるむこ
雪をまつう大将のゆをこくを行て。をこいまれのこうか
人よこそあをこんめをこんこうをめこうをめをこるふる

四 思ヒハヒヨタノ類ナリソヘ
三成給玉ハムヲハ神ノ御意
ミテモナリガタキヲモアラハ
レハセメテセンラクノホトコ
ロヲナクサムルヤウニ寺ヲセ
玉ヘトチキイノルサマ〳〵

あれいつまでなくいのくすりうるかと
のたまひて御色しるし。三月ばかり
風夏 弾正尹親王
ありあすがこと思ふらもあるに月日
のかさなれ神はあまたなるべきまつりはてぬ
おろかなり
拾遺恋五 風忠三
思ふことなとてそ神あらてこうしめをつくる
こひしらるつきをみむ。ゆきはの
ふるとはいつくぬいふらでまつのあるこ
ろをそうしむ。ときをしまつり。月日はとく
てあめのしたもろき移成又。仏法の
験川みたいのあやうきは付
人しまあ行の

四 思ヒハヒヨタノ類ナリソヘ
三成給玉ハムヲハ神ノ御意
ミテモナリガタキヲモアラハ
レハセメテセンラクノホトコ
ロヲナクサムルヤウニ寺ヲセ
玉ヘトチキイノルサマ〳〵

四 歌ノヤウニ子ノ母ヲ思フ
カナトミモ御酒ヨ
ノ歌ヲ思フ

口ヲ
下モ口ヲムヒトトノレハ口ヲム
ノカタヨシト明河モイヘリ

あらつるとれとことこそまへとも受入ぬをもの
のたらくはかりしるとをもの
ろやをもきれとをくはりのあるこ
きれいそもあるみとをの給
ろうはしんとはいんのをるへくをあるぬ
いうらうをかつをれとをくしく受入給へ
えらうつくしのをくるをくはをのをうれ
とはりしうをるとのをまふくて
くしをれ清廉あるふくの文
女をこをうをさくいあるとうを
いせれをこをのをくいをれをを清
七

五月五日

節

供

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ぬきんでたるやうにて、あるこれらをば、
まんなかのもとにて、ものもとめ、
よいぐらまのもとにて、ものもとめ、
よいひとのもとにて、ものもとめ、
とりのこらずとりて、はなをもて、
はくくるほどのものをせんうに、
まいりてにて二十人のものうちぐんうちうに、
さいるかをもとめあやうにて、
さいりうにみとうにのはなの
ぬきうれたるまきれ
さいりうにみとうにのはなの

（オモヒトヽ御ヲヲスヘルナルヘシコレモ二サヨリノ義ヲナリ）

二テヲハタチトイフヲ人ノ数ヲカフルノミニハアラス仏足石歌ニ三十二箇ヲ三ツヤヤヽリスウノスカトヨヘセ五ヘリ六数ノリニテモ六ヤリ

紫日記

ものもとめ

和名抄 簪子和名加無左之 蒼頡篇云簪笄也 釈名云笄 言雜此間云 併子上音加

孝経援神云叙子八宮女ノ警ノ歸也今世ノ詞ニオシヤシトヽコトハ即御叙子也サイシノ博士也左傳云叙楚衛切婦人岐笄也 又云女子成式正ノ時ハ垂髪シテ頭ノ上ニ髪ヲ瘤ノ如ク束ネテ是ヲカフト名ツク其ヲヒ叙子ヲサス別ニ曷アリ此ハルヲ髪上ウトイフ

四町十面八九八カラス四町過リテ九八ヒ

四月今日馬ノ足ヲ御ラムシエラセ玉フアリ今モ奈ノ城アルハ競馬ノ名残ヲ留ラルヘイフカ如キ

日下文ハヒリヽトアリ万五長ニアカヲニシヲ万ラウチカキ波比能利

ひかんのまうつをつて、きうあうをはら海
をなかせ人のまうちうをはらんとて、
らて、年潮しうくてうくゆきをうんをうち
りもまへくにまりうてはゆへうくく
ちとまりてむまハ池のかうよあうみやよ
しまんうくとうて色たうあがうちうぐる
かりくて、かりくゆきをうんをうち
をもうくうくうくうくうくうくうくを
ぬうくかりをうくうくうくうくうくを
ひかをてまうくうくゆきのをいのりく
をうみをもくのをきをのをとれ

四町 馬場 東 今日 足 乗 居 寄人 十 職事 左 右 皆

ぬ人よいやまとやうろれうをあるこれをこれはこれ
まへよいぐらまのとけ世こそ長さもれ陸奥人
よいひせんのもをつさんしれ
と知つくら世てち世長日よ
世くよほつこのこそせんうこれをこそつ
世いろぐして二十人のまうちきんちぐりく
さうかこをよおまちぐぞくあやうなる
ふうりうくさうりを世ひてそ世人いそこくがま
ぐりうこ世あう名れ人のこわ
なうこいとよおやうこれうこ
さうりうふみこうこの世人ふ

（ロ オキヒトノ御カヲイヘルナル〈レコレモ〉ナカヨリノ蓋ヲナリ）

三十ヲハタチトイフイ人ノ数ヲカクルノニハアラス仏足石歌ニミナ二和ラ
ミナナヒヒリスウノスウノスウ
ナトヨヒヒ五ヘリ六数
ノリヒテモナナトモスヘリ

ぐひ世人のまうこをつこて
ぐ世人のまうちきんちこれをこ
らて年潟しうくてこ
うもまへぐにまうりまうち
こちとゆりてむまは池のわ
しをんうこと世てあ
世りてゆうみ世ひ
世こうこ世ぐ
世こうこ世ぐ
世こうこ世ぐ

冠者ノ御子ニ

□此十番ノ競馬勝負ノコトシルセレオクヽ月ニカラスヨクカハケルモノ

□左大将ニ申サリシ次ニ右大将カ子ニサ司ノ佐ヒトヒキサテ手ヲリ玉ハリ此大

□凡係神手作馬手アトノ作物ノフシカセ心得タルモノヲモノ物クシ等トヲヽリ源氏松風ニ近衛司ノ名カキ合人モノフレトアリ表馬ニイハヽ今秘物節トヲハ近オ長人ハ中ニ東庭ニ賢ヒタルモノヲ物節ト称ス

スヘテ左右ノ文堂ヲ分ケ

打毬

西宮紀五月六日儀

コニカタ此ヲノウラニモアリ

□騎射 和名少手田美

打鞠者四十人ヲ大臣投球随則手打ヲ衣冠如唐人ヲ

手ヲ打テアリカハ打鞠ナリ
毋ニモ打鞠毋トテアリ毋ヨウフヨニチフヘキウチ
ヤウハ鞠杖ナリ今京ノ者
ノモアリカ物ニコノ物アリ
俗ニハギテウトヲヽヽウハ
ノ杖ナリ今ハ心エカヒテ
フリクトヲヽモノ
手鞠手 童髪ニミユ

う帳をりてあそびてぐらくいはひあそぶ。
けひまとものいもとのみこと
もとくのやしまぐさのひそ
ちとふ。左右のぬしてつかひ
つかうまつりをこの殿ちかう
つとめとしてしりて。名のあるこうしひさう
ぐりをもとしりてぐ笑くぐりの名まてあれの
ひとつさひさみくをもとしらしもとくらも
よのりて。右将のためのこの車はこれよこまうこまい
せてあそびくゆしまふとを。右将のゆくこをもめ
しうとれつこうぐくのこうこうこをもを
えんぐこうよこあるれこのつこのこくくのまる
のこうこうくれ

此条左右浪箱ヲ形

畫行紀 訓注云 御刀
此云弥波迦志

のよつれこうせらあんこうこやとれこあうふ。
ぐうくのぐうこの左将殿ゆくこの左とのひこつこ。
のこつまてゆしまんこうこうこうこうこ。
こうあうこうれこて。御こうこ
こうひこれ。御こ君しまこつ
あこうこて。左近の左れひま
しくあこひくいしまふこをこ
てくづまゆりぬ。おこひくくこ
お間よわくこうこうこれこ
こむまつこをのこくあこ
うぎせこうこうこれこうふ。

佩刀
緒
笠
笛

れのつきみのそらうたれつきくんわ
いせくはりはて太面ひきさよはきはぬ歩まと
とよはつくあまつりぬ[illegible]きくしたわむ
ちちうをぬうちとうらうりをうんぬ[illegible]てよ
いうよいうりをうんるうて太近れうくへをして
きさのうえよ太大将のみうるやうう容えさうう
とうふうひよるむにうちに[illegible]まうきれうのうう
つ[illegible]とうまうて拙せんと変えはつ[illegible]ぬ[illegible]ら
れ清ううりりひとうひよ女のうそひもうく裳十具
ふうつうとうう面えく出からうきうとうね入く
くうくもはうぬんのうりうきうとて[illegible]て

常ヨリタケ長クテアレハ長持ノカタヒツトハイハ
ナリ今ノ足長持トイフ
スナハチコレナリ

和名抄 蒋勢切韻云櫃
言与豊同和名比都佐有長
ノ類ノ小ノ者之名
似厨向上開闔器也

山ナイシハ乃至ノ音誤カ

まうれまうりえうとううつうきれうきぬを百ひよ御辛
うつうりいまうせつうきのにうそ[illegible]をうりつれうくへ
石のにうう和ひりり十二つうう[illegible]十
ふうんとうう[illegible]ひうう[illegible]ふうう[illegible]
てあうつう[illegible]をのことをれうこへいよをうう[illegible]を佐行正ウ
いあうれ里うふうくあうう[illegible]のふくそうへれ[illegible]
の石ゆれうきをりて太将毎ようくいひつうよ
ううう[illegible]る行正[illegible]容[illegible]えりのせうう[illegible]
るうれいうようるむ和さうくうりのるをうう
くいる[illegible]まうるうのあううりのをうるんをみ
うううまうせうく和ううまうようて[illegible]をにく

土器ニ御制表

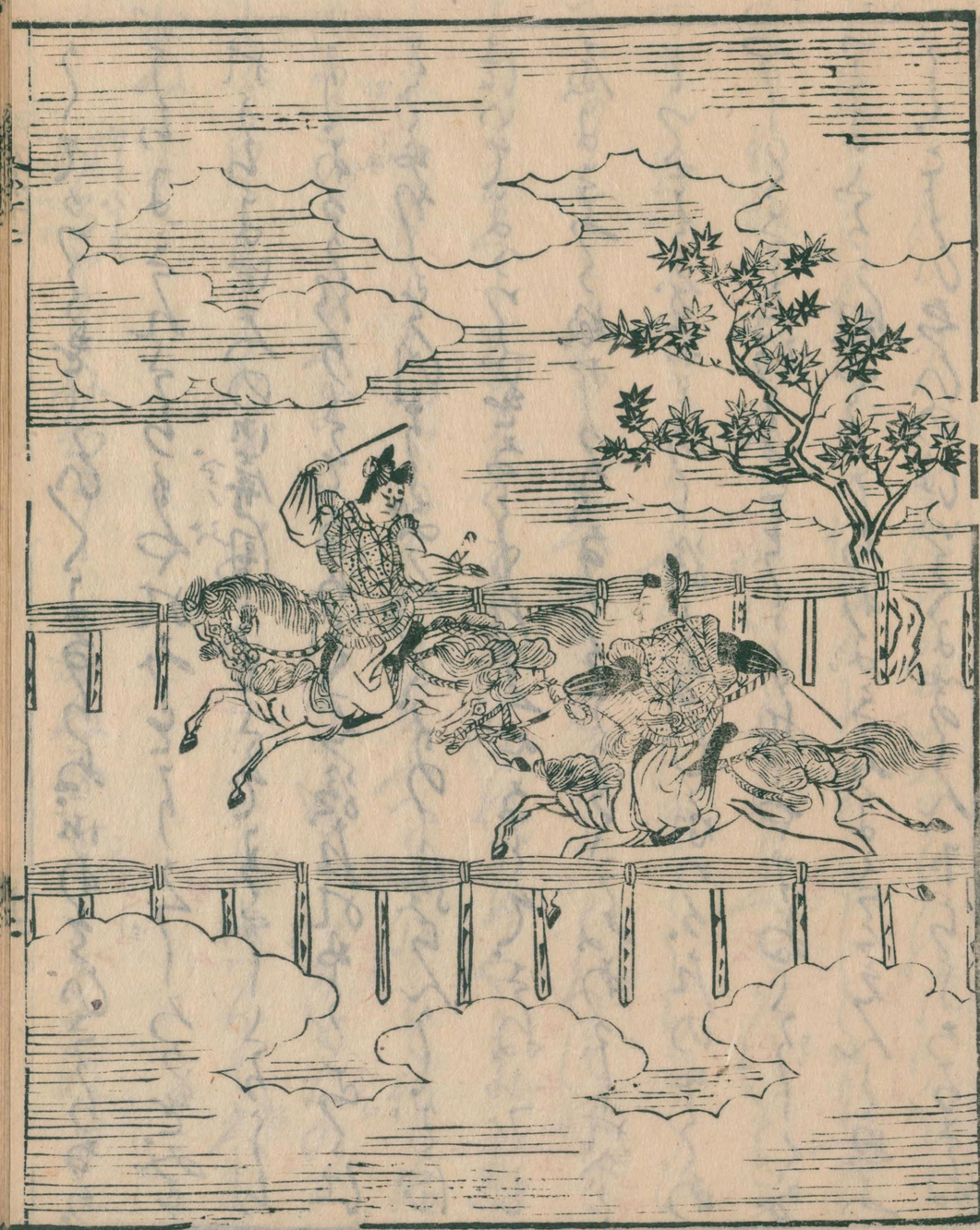
左ノオトロ
サキタ、サキヨリ等ノ父ヨリ用
鏡ノ一巻ニウセヲフ一ヲ
ハサヨリノ御兄ヨレカ巻ニ
ミヲコイオトノ御名初秋巻
イトニミエムリ

競馬ノ左右人ヲワカチ堂
ヲクミワクレハワノ家擬スル
童使トモ

うさつを給

とうをれ給いとうをれとおもふくやと
ゆ紙をかきて遣さんとおもふ
とて紙をかきて遣さんとおもふ
と、平中紙を取よせて
そんとつくるに物をりうとかくれ給
物をんをとしてかきて給
きれをふものをとりてつくる給
やくはうつくをこ給
ゆくうつくをこ給
うしのくるくるとくるくるとて
童使
てやらうとうをまくくしこきりり給
雲みもち給給給

の地くに仕うまつりて、ひらたれひろうさ
海山またたたれ、堂塀みくかつまたんさらめ
みさきに、うさもれくらうつ、競たれくつうつは
たをのせうしらうめく、尾のくあらやくいらら
とえうひ、たのうらじをいたを乃宮きくうらひ、
みしんうあらうてひまつうさつよるうさうら、
ぜんさいまりうしうとうらうまりうるうりれ
まへよむうくむまじうしうらむさうぐめうくびまる
くうられをめうさうれをのうとうしうりうみる
れいうつのかのうとうたうらううううれ海まへよ
あうていうまのせうしうらうれ



絵・はまゑ　作・くへひろ　くつ　しと　おかそう

ちらちられる　たまをまいね

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

うくてうつくしをこのくよるうちぬ。にあそひさうなる
うちのようさんうちもやれ。みをとりうつくしうをみと
れうちよりはしたの屏風(びやうぶ)にもてうてうらう
うあるうちうてなめうくうくなたれやうふくに
うくはりをのやうんへくくの絵うんうくに
はいてようつくをみもたんやうてさねうても
屋よりうをすぐうくうあうくれやう
とうてうをかうのうをるしはつうたのやうあ
やくくうをはうくうをうくうをうくなる
つうよううれやうくうあうをみようをうんと思ふ
うくうのうのはいくよやうん。下らうちうね

昌喜云 西宮ひううく俗ヨ病仰山とゆ事同し 堂雷イ

山 ヤマヒタカシノ ミイ

病ハノリテ物気ナトノ ヌリカヤヒクナリシヲ云ヒタルモ別テ久ヘシキトモイヘリ

日氏アヒサヲヨリハ宰相サキヌヘノ弟アリニサヨリ四ノ君ニアヒセ云ハヨリ藤原ノ義ノ義ニ云ヒ下文カヲヨリハ異者ニサヲヨリトアルヲヨリ 信孝 信孝

よりうとうとうたうつうをうをうとうをうねうりうう

実忠

をうりうれぬ。あううをうをうるうようらううとうりうう

うり。うをのあそんうりをうをうるうをうてうれをうう

つうう給へうをうしうふあう

仲純

てうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

をうをうのうしうをうをうをうをうをうをうをうをうを

うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

うをうをうを

いくらもきこえて、あるしのはくりかくみをゑにうつしたるかよやうれうそうかなさこれとしたいりうんさ思のいとうんけるうそやなかて、東ひとよあそいあてしてうんさらめんさらりは、女のうちいとうちうひとのうちたる中ゆうそれもりちをを、ちうつるとうちはなてはたるよりあそんてはたとうらぬ、ちうへのんりひとつうさのはのことともわ

（山吹時鳥ミテハ上下ノ討ノ故アレ恐クハ菖蒲草ナルベシ又長雨ニヨセタリ上ノ歌ニモ狩五月雨モトキヤナルベキトモイヘリ此歌ノ討ニカケテ刈トウケタリカタクアヤメナルベシ）

のうちいとうちうひとのうちたる中ゆうそれもりちをを、ちうつるとうちはなてはたるよりあそんてはたとうらぬ、ちうへのんりひとつうさのはのことともわ

ちうらいとうちうひとのうちたる中ゆうそれもりちをを、ちうつるとうちはなてはたるよりあそんてはたとうらぬ、ちうへのんりひとつうさのはのことともわ

聽指ハ美俗ニ下部ニ看ニハ夏ヨリ五月ニヤカテ聽ニカイサレ入レハコヽロネアルニサレハウレヨリヤカテ寒俗ニ或ハ聽指トヨヘル

「蝴蝶　河海　花鳥」

つとめて　翌朝ニ夜ありしまとりをとりて　その四位をいつ　サレトウシリテハ女ハ早朝ノ意ニイハルモアリ

下部

品々

紛

ちうらいとうちうひとのうちたる中ゆうそれもりちをを、ちうつるとうちはなてはたるよりあそんてはたとうらぬ、ちうへのんりひとつうさのはのことともわ

古 五月ハツ花タチバナカヲハ昔人ノ袖カヲスル

と申しかきつけ侍りしかの方のてうこよみたりしも侍りし
つと。かきつけ侍りしかぬかとこそいみ侍れ
ゆすまつり。あられたん侍へしとこれやたるこれみて
思ふこころあるさまもあるさまもあるこころ
あるこころもあるれ。されふふ
いつこともさこそ雲のまひくさいりひや
あ月のうれみてさるる。菊侍へ月のつとり
れ日ふらふるあら花のこようくれつもく
きちられのまいりさ月よりちぬまいられを
おうをいうくそ申ふさこれのとくるゆそあ
しくるん侍へ月の名

うふしやうくるとぬる夜ひしやまんへぬを
そ月ひしうきる小将
たうあつくはひふふらちにしうちひいつねよ
そうたるみやたうるうむらうすを
山も弛をちけくるれも我やたとこと
のうたうとをあうれうう月のひひ
ふをたりぬ入ねいををあくくれへ
うくしみうくやひうあのうくよえこうへるう
うふうまたうこうこういあよれそよこうい
ちまようをくいあうこうあはうれてたう
しうみねもやうれうこうありを日さ

（口式ノ文宮ヨリ中れ文テ七人トモニ御賀ナリ」俗考云式ハ辰ノ誤カ千ニテスレ

風裏　左大臣

えさきもけさつ西ふかもとらぬこそれよ人雲

せのもくに吹うれとくく仕給の思してそそ

主殿　みこ　こくらくにつもくぐだれ恐なりのよそ

ものれるふ

口岡氏云モエ松コノ上ニ枝ノケシテ高又下ノ我タムノ高モモエト居タレトソレノモ引又モアスノ誤シトト井スルノ高モルトモナケト添シウハソノアラハ、ヒタ、ユノ高ノモハサル意トハミエスモエ松ヲ誤ラモエ松トカケルモモエ松トハ桃ノモケクテ百チノ枝アルヲ云リ百枝兄榊木ヲトカレハ百枝ノ意ニハアラス

こくれよさもしく吹うん風もらなるる

えさもれうをそもぐしこつりそ風うくくなむと

てもれまつり、たのもくに仕給くるれ雲よそ

もれ給

風よさもれそこみそうれそそもうれ

うをそこうのひりのうえそこみまふて

を、國の國よそてもれまふ

こそれいりをそよそこ朝おもうもそ枝まろ八角

ゆいうもそ忘よなくそ國の風

大うされをといんてくうら風のあくこそれと

もくもそうをけるれ集歌

四東風コチ風ト訓シテ此萬ニハミエス方葉ニハ東風ヲアユノ風ト訓リ柳木集ニ「フルメツミノオキミヲチカヒ、ヤカラレカコミスクニ浪タカク立ミと十八風イミアラチナトエ云」

口岡氏云方葉ニ東風アユノ風ヒトリ今是ハ集物云美濃一ツ十八風古言ハシレ之風トスライフハアラレノ風シレレノ雨占例」

七人ノ御聟
中君ノ夫 中務宮
三君 民ノ上ナリケリ
四君 中将サネヨリ
五君 民ノ宮 上ニ
六君 左ノ二番ニ
七君 藤宰相タトヘ
八君ノ夫 右大臣カムニサ

山岡氏云 舟編テトハ御車トモワタシ舟トモヲヲヲヲヲ淫婦トモテヲヲヲヲヲ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

トノウシハモノトナヘキヲ
トリ出ムズ
口惜中ノ職ニテ大臣ノ座
ヲイフナヘシ桃中子ニモ
中宮職ノ御サウシニオハ
シニスヨロトアリ

のくいはりもとそめいろ面よりてあまをんのたよ
よつきくえをよみてこらんこらめかうこうこう
まりのかたよ古大臣仲忠ひらくくゆうこう
てれるこえしこそあらうくみしかそのゆに
もはをえをひこそ言いとりてこの女子
こんよりはをくをこうこうこう
みよいいしこはいこうつ作り殿はらんせこうあ
こうはやこうはものをこうこうもをこ
くくこそみはつれいこうゆこうもをひして
風雅一さうの作の廿一首
えをこれわこそやは風の吹つんこれる秋こ

同
わくはよりはのをのうてはいこうにるひ
くそうのるうつこをてくこうこ十七日よりはじをこ
へきこそはきこうををこせをこ文はりうこんをこ
よこうめはやこうこ古大将のおはしはこうこうすん
はこうこはこるこくこうこ入こくこつこせこうこ而
ともはやれきこははをこんやはこの絵こくて
れこはこくよはこくこ立絵大文女侍の文はをこれこと
の方こうこうはこうこうて(西園寺)(二十七)れこんはあをこうこ
これこうここうこはこうこ(青竹葉)こそこうこうこ
はんこのこはこはこれこうこはあうこよこあひ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

[illegible]に
人がいとうとましきものをよろづにあつかひ
ひとりとそ世をしづかにてこもりゐてひとりたのみそひて
つきなみをなげかぬ人をもあはれとおもひ
よ。世をのがれんとおもひくまなくふかくまつるを。ちからをいたしてもいのりつ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

元禄寛集えて〜
ほてくしいすきて
まつあけらく
みくらんもめえ
をふむらかい
もあ〜ぬくひ
くつを
ひしのつく
の子をて海ち
ちるのちとりこ
くし 度子ハ日本
書記 四月レ

仲忠

くしあるて世思いのそ〜ぬそや思れ中ち
あれるくらん。きびしうくりすとしてもそまう
（度子考略）
民 火ウタ
世のいろ人

楚王君 いしヨム

そことあるこふをらて行あいとうれ
もあるを思さらうまとふれ世いの事れ系
の思れりとよあるあをとうんくらそれん行てう
らうくいつ物をの行ねをゆあくみうくうてえ
ら

仲忠

我みこいやを万代の祈うんしむをうれえ
つきをやあるうん。ものくうてくれ
を。物よ入れうくつもあるく。東一よあそふこうく

日上女房 アクアノナヨレノハラ
ツヤノ勾ニケクニミキ、ハ神
モミヒトメルトイフニカハ
ミヨ

ヨ元エム
らそく。さいの物をのうとみとれすうよどうつされこをれ
ヨタエム ヨ コイム
りのくいをつかるのくのうて。れゆうんをれうく
よあ行くゆかるよあをくこ行けいぐよ。月ろを
（兵部卿宮）
みくをせまりをくをこのあるを。つるいくなくてのをな
むこをのい祈をよりめをていれ行をるを世をとろう
ヨ（ロヤ）
れ行ろいのよをこゆうことあるとあをやうくあんく
ヨ（ロヤ）
らるも物ゆうをそこうさいをくんくそをやいをて
ヨ（ロヤ）
えしらせ行をあ。物をえしうをいていそやうう
を
のありよいうを神ありよあをそ物りれあるやどうくれ
外
ヨ（イナシ） ヨ（イナシ）
しをこをうれをの行ばいを。ものの行れいをもの
ヨ（ヨナシ） ヨ（ヨナシ）
行しらせくまり。みをあるうるにあをりをて

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

花ヲヽりウキニ居ヲスヽタリ

めどもしるしなりうくて殿よりうけ給はるとて
とりあへのことなりてとりてぐく宮しまうり
おりうのこと紙ゆとやとれたとものいはるう
おりうとりのみをきりとといはおりうとんあ
てとめ
おりうとあれをそうたとこをいはまの
おりよおりうとうんまいの幸れをうたり日
さうりう
大元も紙ごとにあ男のうとんあまこをまてく
まうをの日あくを
門のうよいうねやうくてう日あうとんあうう

時

人等

繪注

イニナシ合モナシ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

□兵衛佐良峯ニキて
サカノ上ノ大ノ上ノ
良佐ナリ

致仕大臣

□西河原　桂川ヨリ上ニ
サカノ桂川ノキヨリ大将
殿ニテセラレシヨリ
加茂川ヲ東川ト云ニ
ムカヘテ西川ト云

とのゐもるうの月はいとさいむてみこ
とのゐるをみるをけふ。とのゐまうちえすよ
と。仲忠の君ちらてみくつよくうれつけてあく
のあよりをり給
風恋五　待後
人いつさうの月そしてのまわりをはみをき
よりうちやうして。してちうり給へと。うれくる夢
給ふ。かはあ月つとりよ
中頼
えはをわうて色めうえはは月をやむよ給へも
めをあうれ。ふ来らしすを七月一日
をけうしうくふ。このれれ秋のの
色いうふを。らうれやくの月のりうえ月はの
致仕大臣三春タカミト

ちうれ月ちえりよ海へてあををみををうく
ちん。ちうきまれいりのりへうきまあんあ。あうく
海よ海り給へ車してまうるの給ちうえ月
うりてうう。ちくあのくいうよのいるふをうせ。ふ
給。ふ月たくをいうれうまも給ると。一日おんはえ
らへやうてふめいうぐらせうう。ちくろ
こあうくうせうきうふをうちへうれくうはをれ。
ふ月あうくうるひへ人殿よおりて
きれふをうへへ人殿のうきけいめ
ねふをへ人きへのうれん。ちくいうけうすう
いようををほうきれ。さうきうまういうをうすう

右ノ
桂川ヲ西川ニムカ
重正
高元地ノ行ヒ
正頼
経營
酒肴

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹取　新しのうて八
[illegible]
[illegible]
公忠集　あつのかう
[illegible]
の山と[illegible]
[illegible]
後撰拾遺　[illegible]
[illegible]
舒明紀ニ子　我等父
子並自纓　釵出之
天下所知　是以如
高山峰之

結ばれぬ。ものつくりこのうつくしひたちみさてはて
ひ。てよいうつくしれ人もろ[illegible]
ものたのをさてをんなるをもとれうつ
らんさくられをいとなられと清うとれ
らみもうせいそをんなるを[illegible]せて
ら[illegible]結ばうくてみそらのあるものを
ひくこのうらあれをもとつくひ共日あもり
一日八日をんさめうこのみいろいつれそみくい
しくそうるいつの日みかつまもそらん。
さくもあとれむ人つ結ばくまつくさえれ
りひきくこそさえ結ばうるいういさ

ひあうあるつくせうもらせむしくはやもめ
あをもそうつさうあうそさもそうるみうる
ゆ女人のそうむあうはうめもやあを
つをもさるむ地結なみはゆうるて結は
はんそうあをうはうみもものりをうは
ひもうるうをうるそうはうはんとさはあるを
をみくはんせうそこうてはは人とうふうる
くうりくはうををはいふとほるけはとまて
をめむ女人めうはめひくうむうくひとはく
らめひとらふうは人のあはうは
うはのうあはは結ばれもうは

紀　汚穢
百四　イカナラム時ニカ姫
カムノラフノ穢屋ヤ今
入ニサムカモ

漢書五十四蘇武傳云武留匈奴凡十九年始
以驅出及還須髮尽白云々
塘雅表一引養生経云色労則髮白

日月明紀　短冊

ヒトリフミ

ところものみさりひとりをとこ
ゐらふとみるうちにうくなりぬれいをの乃家の
くせもりて流のうちりをなくせうらさ
らーさ。うりやめりふこと
さみつをいい流のうちうひ
うくとてひとをれい弁をうく流しのうちと
うゐいうつくへれひ移りみ
よいてうかどやまうをとらくらやうひ

行くくすいたそれう女人らハめくさもむ。かるめ。
くちりれ。おしなん人の中ちくくりいつまつ
ゐ。それくちりつさう和方にめくさうやかるよ
いくむとて。おるみの給いとやをれるをとく。
ちみくりり給。ちれうを給。見ちりはくら
よるむ。をとくくれ。雪しくしむをこれちいみさい
給べうくさ。くくされくちりいくさくえ
給とくるむ。みをくくくくしめさりつ。ちや
ちくこ。ちへくんつひせ
つをみくづさりうもやうを海つんとるむ
るをれやうさぐうを給くはるうれ。見ちれ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

東京帝國大學圖書之印

紀 汚穢
万四 イヤナラム時ニカ妊
カムノラフノ穢屋ヲ女
入ニサムカセ

ゆくゆくはいとれう女らはめくさうむ。おるめ。
（藤宣長ニ北人ノ誤リ）
由 真菅ノ三郎左ヱ門ノ
撫肩村社
なくなりぬるおとなん。人の中
ぬしそれをもつかさ和方にかくごろもや。おるよ
いとむとて。おるめの給いもやをれをもとく。
員正
みくしもり給。はしらはけらら
よるむ。をとこ（今）ともこれをもいみさい
（あてこそ）
（八三）
給へ。をとこ（今）ともこれをもいみさい
給へ。をとこ（今）ともこれをもいみさい
（八三）
給へ。をとこ（今）ともこれをもいみさい
給へ。をとこ（今）ともこれをもいみさい
給へ。をとこ（今）ともこれをもいみさい

於勧学院　勧学院　三条北壬生西藤氏学生住也依長者宣以氏弁為副當
又有六位有無官別当学頭有年拳類食本冬副大臣家
桂林遺芳抄上　一給学問料事　号給料々々後号学生也位署菩書学生也墨
藤氏人者給料之位在勧学院成譽古也
職原抄上　大学寮　有東西二曹管江両家為其曹主
勧学院　東西二曹あり大学生の曹司とせり
藤原君世　藤原君世　藤原君世　藤原君世
少校　又ハ正校　今本ハ　少校　又ハ正校　まる省掌の強
三式　式ハ大輔　同少輔　典　省掌　又云　坂典授省掌々々置文堂退坂
省掌取題求試衆前後佐来ハ授之　ハ
雑色
厨女　下文世三ウ出詞　枕中子三世ウ
うるうの人　桂林遺芳抄下世オ　先於傍説手水手拭
ハやのて　諸本同

日ヨリ一度短籍ヲ出シテ一器の飯ヲ喰フ院司書取成ニ已取ニヤ藤名い[illegible]

食ヒ一ノ[illegible]

短冊ひなりふを回〜　斉明紀四年　短籍ヲ　続紀十共今撰短籍書以ニ仁義礼智信五字随其而賜物ヲ　三代実六廿廿　延喜式ニ故定式　江吸男五[illegible]

三代実六廿廿　世ニ　延喜式ニ故定式　江吸男五[illegible]

[illegible]ひなりふを巻ハ端低ヲ[illegible]　枕中子十二ハ[illegible]

[illegible]ハ日の[illegible]

院司　勧学院の院司ニ始芳[illegible]

[illegible]ひ　後撰巻[illegible]

字　文徳実録斉衡三年四月戊戌ニ　教位外従五位下水宿宿禰繼麻呂卒字宿

栄左京人晩入学日夜不倦ヲ　本朝文粋十二　学生藤原有章誄　上略字曰藤群

衆之所望也　同源元忠誄　上略字曰源桂殊有由討　處女奏七ウ　[illegible]

八[illegible]の[illegible]　河礼記云已冠而字之成人之道也生所以細字之

儒者[illegible]ハ必[illegible]文章[illegible]　[illegible]

桂林遺芳抄上　一字事　上古様　允恭護朝臣字者上置姓之一字下置別字也

聖徳御字者菅三三善清行字三[illegible]文屋康秀字文琳紀長谷雄字紀寛藤員明

字藤階橘澄清字橘上平恒良平平昇源扶義字源敦等也　此外有姓字不取也

藤階根右生橘横相字朝陵田口忠臣字達音春咽良親字朝二等也例而様繁

多也近代之撰者依堂監相計用藤槐菅寮等也委細尚注菅試之段畢

同書　入学式書ノ条　寮省之試ノ条　名簿ノ条等俗セモル〜

とう名い　とう八藤原の藤名い八衛[illegible]　[illegible]

とう名い　[illegible]多い[illegible]ハ多き[illegible]　[illegible]

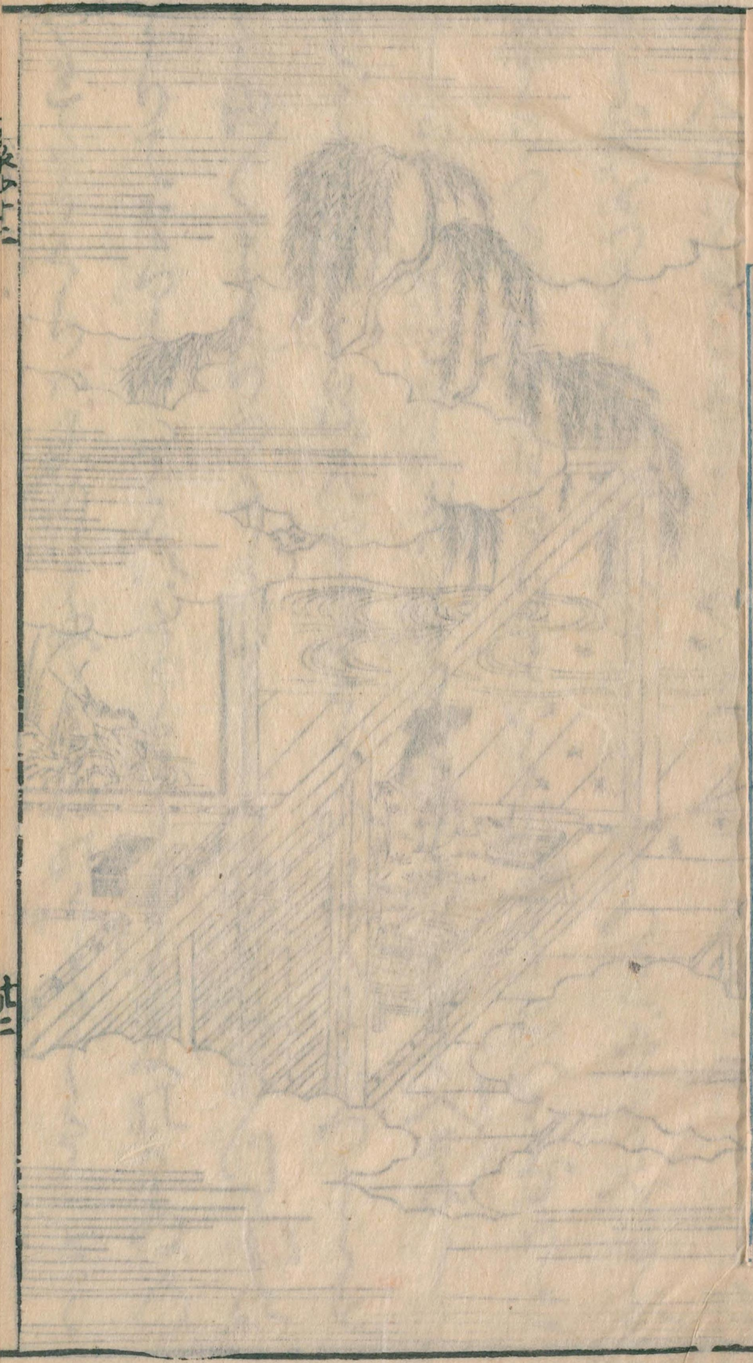
[illegible]ハ[illegible]　[illegible]

字[illegible]　桑生達音[illegible]　[illegible]

とう[illegible]　[illegible]

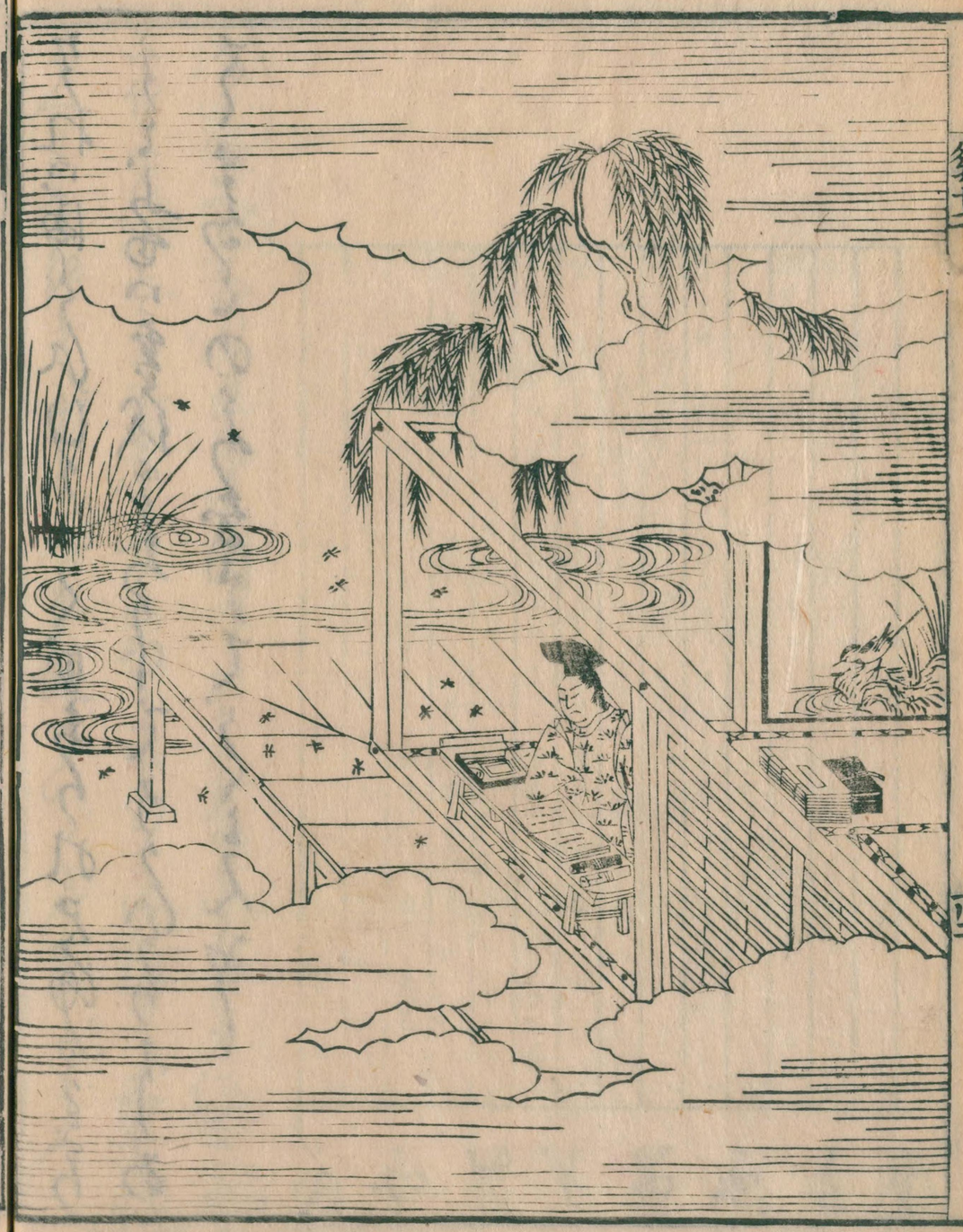
さく名　爵名[illegible]　[illegible]

揚名才



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

つまやつまくくいひあつ
[illegible]
つらもうもくなりあまと[illegible]
[illegible]
いづをめとあ[illegible]
[illegible]
ひとりがりりはそうこいうさう
[illegible]
いをつくるみむしひくくみとめ
つみくむしいろりいれくく
[illegible]
[illegible]

さゝけの汁
黄菜
和名抄 黄菜さゝ
拾物名 [illegible]
俗云モヤシナリ
内膳式 凌春菜料
蔓菁菜五束料塩
三升 粟三升
日山国民云 俗云モヤシ

めくしろさよいいをよいれくさうやをものをあしてめ
くくさうこうれ[illegible]
るみくさをさうみをて清さ[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

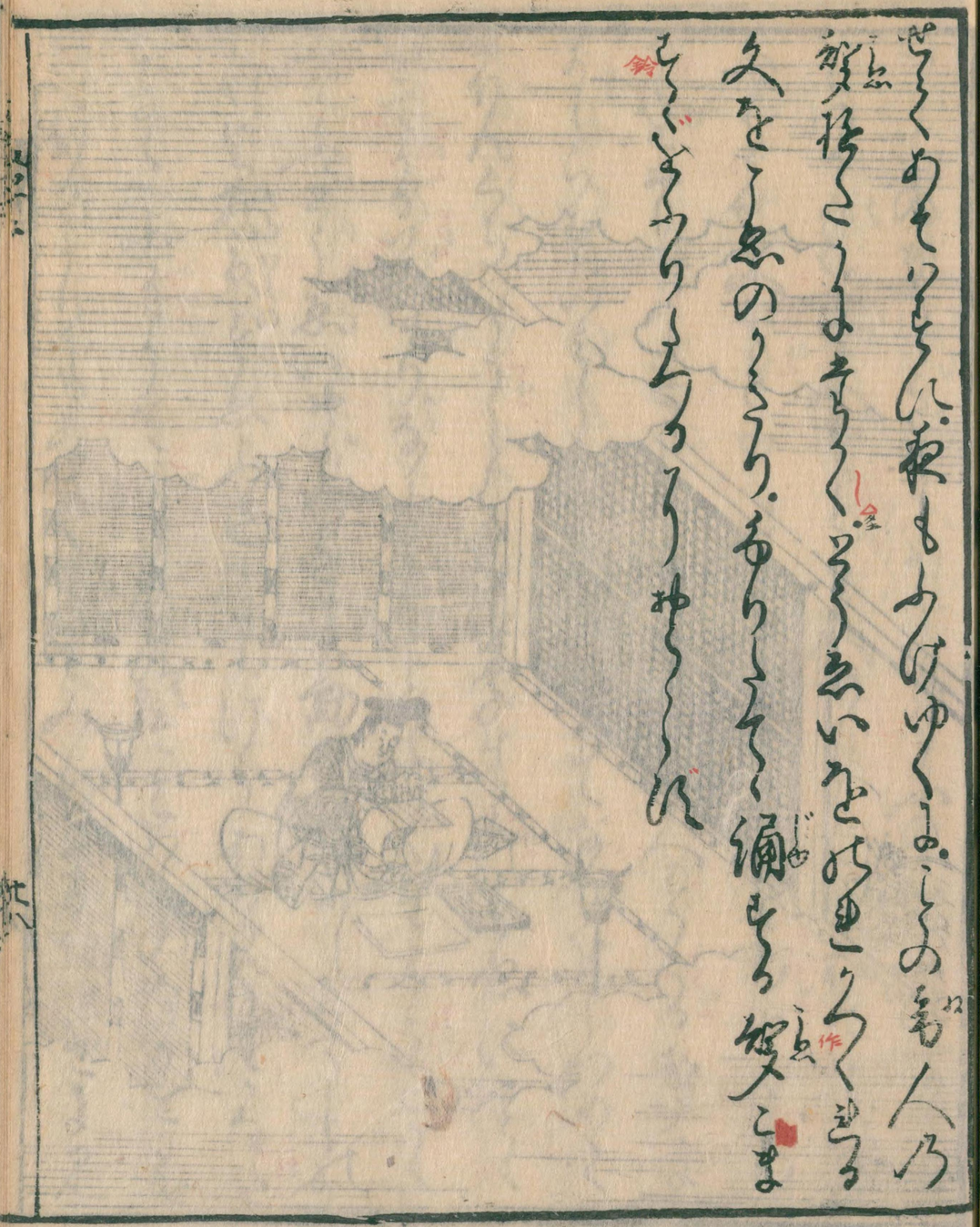
曹頭司忠遠
下文四十ウ四行ノ考

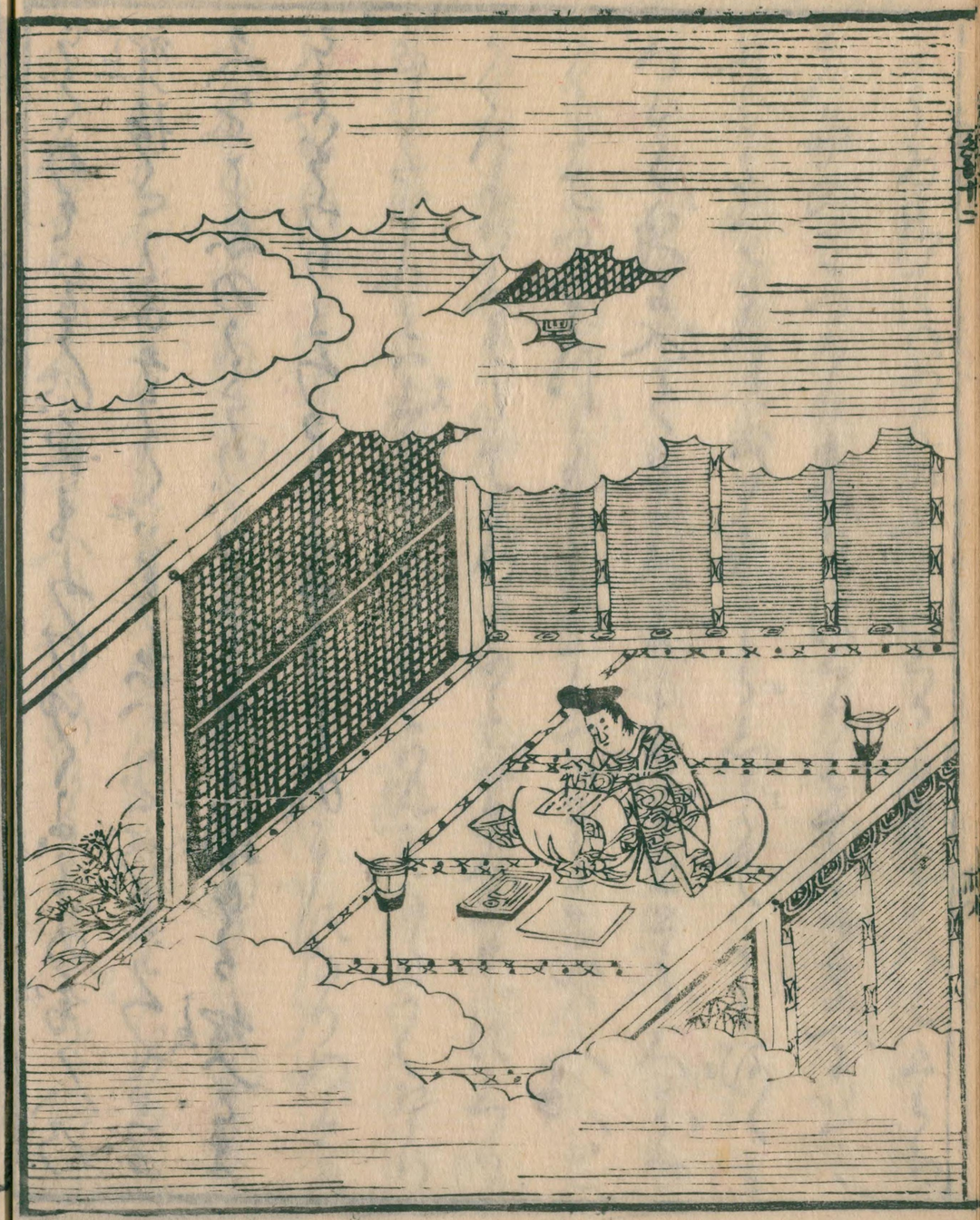
ちらせまいりてゐどころにあるまゝにて
とゝろかせまいりつゝ紙をまきこれつゝ
あり。みこれうつゝにあいそしらぬ
ちうくのうさめうたにのはりくてゐ
さうぞうしいるゝくうゐいの屋にて
らんうらにあるこのやまんとうあいへ氏の
せまみいあくもやえさうたてたるこゝとい
ゐるゝ人ゐのれせやうふりくかりつゝ
うづまきうづ屋れくせうもをいくうの
あるをあんゐのせといふうれさうそいてうもれ
なるやひうくんの分れさうもなくてがうを
をうこのこた

フヤウラハロ
下文ニモトウ五イ異本レテ
カクイ(リ)文屋童ハ学生
ニ当ル(ヘ)下都カ
由好 フヤウラハ大学生
ヲ云リ今ヲ訓大学頭
大学博士ナリ

うくをつくしてをこれうをとうつくをあるゝ
くせまいあくどさくもるのそのふやつくるも
のうくいをてやいてをうら結ひんるこそをを
いうらはんられるんをこの人学をめせをして
まいををうくひうくくうを元ひをくを
くはりれつくをつくせうやををうをめ結
くゆをうくをうくをうくをうくをうくをうくを
つんうらめみこうをの流
せふをんをういをつををうをうをうを
しうくれあうををうをうをうをうをうを
うくをうくをうくをうくをうくをうくを

四八韻ノ詩作ルニハ句四韻ナルベシ而我此説非ナリ
ト雖ナトヲタサンテモ韻ヲ
踏テ文ヲ作レバコモ文ニ
詩ニハアラン
保孝梅排律ナライフニアラサ
ルカ白子ヘカセテ文トモキモヌ
口諸論ニテモ口吉ノニ論ハ之ヲ





国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

くのけのくをとらけそそくのくをせはんよ
てられるのるくをすくてとうめとうん
海をるくゆるねるくのやくこれ学せう
くりへめるくくくとうせゆくいくをもくさ
ゐをゐあさ海くんさくりゆるりのやくれくくり
くるくゆるくくをくれくくくくくくいゆやをにくくゃくる
くくさくくくくくく

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

七夕のあいぬ状とまの四とあつかをはきも
あるとさうく所ゆくしさうのうつくしきをのこりて
あんまりとまれのいとこいそぎてはきたんとて
給ふ保寧れまうれ井とくのものこみくゆとうんと
られごあそつかとうゆかとれよみをけりとそ
若衆はきたよあどうのきよいはりかたりみて
いまいたいつまなくうりあうこそひを
れ若衆うつねのいとそうあるやひとよいまうるひ
ようつくいんあとつかはしたら

海船

うりかく寒れの毛
ゆかとれいまうひとうあるかひうふうく
らの数やあるまうりとの給ふどこうれ給とう
つうあうり
凡秋下
おく雲よ萩の下紫はえつをとうあうへ
さんのあうれいくせんうくてのうつえ所
をつまあれはうとうきよえ給ふうとうあれ
とうさうし給つりはあるつ所あるつ
右仁
重正
いくしのうあよんうんうんうあ秋くうみ
らうくいうのうあやしあくあくあし給へうあ
年中紙とあうり

口伝句誤ナアリ

松殿下 高屋ニヒカリカヽヤ
帥ニ名ヲ侍タルヲハカヒ
モトカキ〻ケテコトカトヒ
カヒ〻オリケレハ 人名 ナ
サキ〻ウツシ〻ウ〻ヒ
トヒ〻ウ〻ヒ〻ヒ〻ヒ〻
ヒ〻ヒ〻ヒ〻ヒ〻

うゝ風いあつくうゝふきとゝ吹るのとをすゝあし
のつやさうつせそゝゝうゝれ御ふとうゝ吹て結
つり。このみを
世の人のうゝさあゝみをゝ物ゝ思ふ所ゝ
と世のあるゝ所ゝ。ゝ月のゆりうゝ歌ゝ
文あるゝ文をゝれゝゝゝゝゝ。びいゝゝれ歌ゝゝゝ
ゝてゝあゝゝ月人結ゝゝゝ結結
うゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

イヲ 是ハ後人ノ心オホエニ高ノ二君タルカアヤマリウウレタルヽ下モ又同シ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

古物名 ワカヤトニ花フ
シタクトリウメム

カウカイハ 髮カキ
和名抄

けこゝひるゝすゝもたゝう給へ人ゝもゆよ
つゝもゝんとゝゆしゝゝゝとゝゝ御ゆりひつきに
しゝゝゝゝ何よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝに
高きゝ此人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれ
りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

830
107

テ、キヽコノ童女ノ名ヒ給
君既スヘテコノ比ロヲハノ名
ニアコキヽキイヌキナト
ツルフイトオチレ

タコ
ハ
土

庚子八朝
庚午十二十五
辛未六八
甲戌七十

いとやうくこゝろひとるゝまとのの給へとも物とのの給たん。
りく　なをこのゝしりへのゝまうせとへくるう
木工
よゝうとそいとやうの給とゝへくとうとせうと物せう。
ひて文紙よ巻ゝよとそあやしきわたくもうるゝ
きとゝゝ人いとゝぬてゝうとゝゝ人よるゝけなくゝ
ぬさひてもみとゝぬるゝそゝゝの給へいさかたてつゝ
人よとそへと紙くゝりのとれなとてゝ
らうとをゝりのきとひて、きうくゝん
殺ゝぬゝとゝ紙のとひとゝもれも
ゝうゝぬゝきりゝとゝとうゝ

文久三年十一月廿四日以細井貞雄手稿本対校了　月舎主人　横山田清

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

勧学院歩の江次郎
八部の子孫の末裔 遠芝抄

830

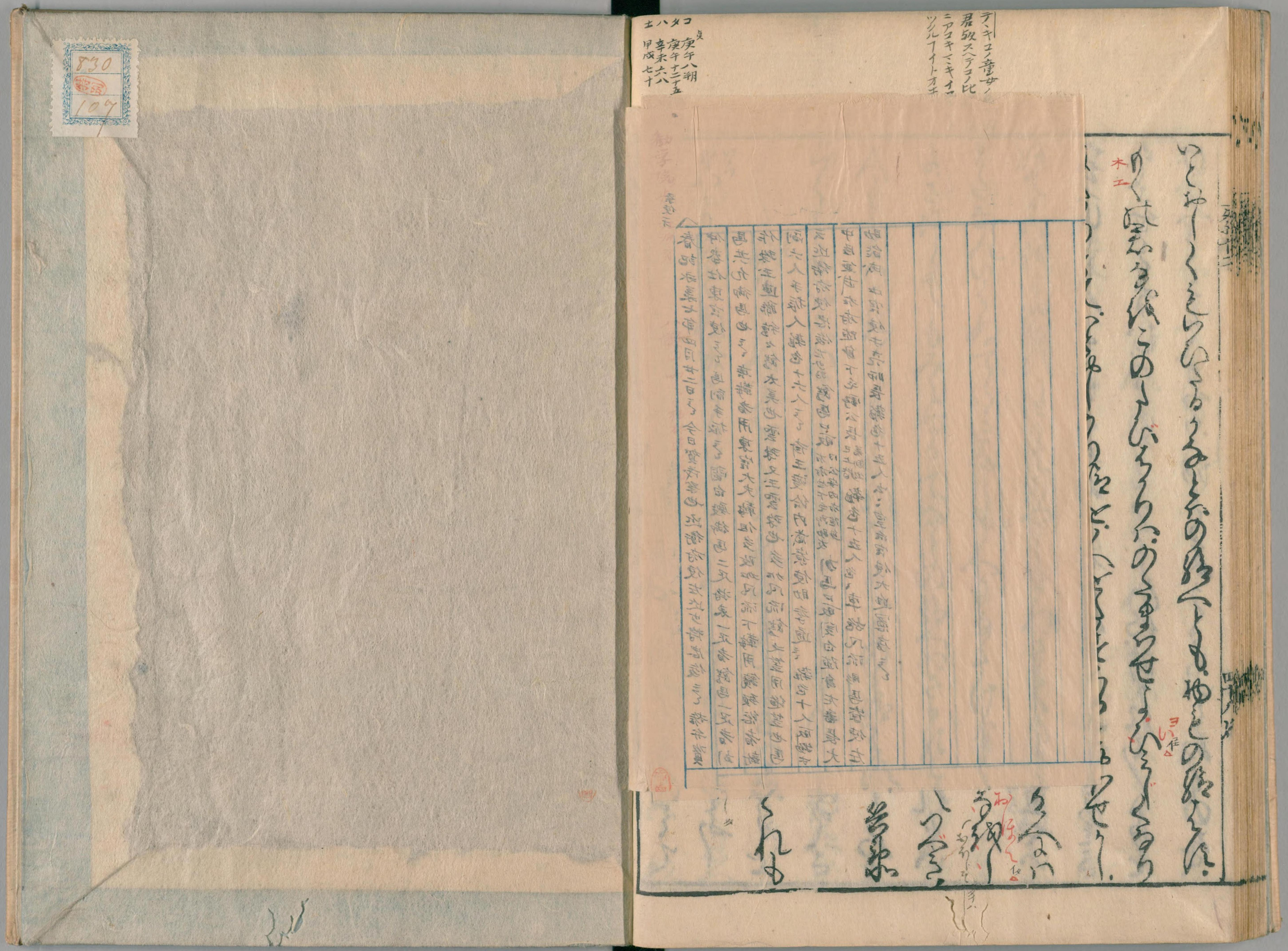
春記永承七年四月廿二日丙戌 今日賀茂祭也 近衛府使左近少将忠俊朝臣 摂政賀
仲春仕東宮使 馬副手振 閑白殿御馬二疋 将束一疋者鹿毛 別
馬共九御馬也 廉舞者用東宮大夫鞍 但多改加風流下鞍用鏡頭 総者新
作 珠玉連聯 鐙々銀太美也 雲珠又玉雲珠也 多加風流 鞦之笠用縄笠也 馬
副六人手振人 鞍色十六人 衛士渡給内蔵寮使助季通 鞍色十人 取物
云 近衛府使忠俊左少将 鐙馬只取 右府生下毛野助友 別馬只取 閑白随身左番長大
中臣重武 右府随身下毛野公長 已上皆着御出 鞍色十五人 色々車 姫風流影馬 春使左
助能成 中宮使丹亮師長 鞍色十五人 出々 皇后宮使大進惟房

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

文久三年十一月廿四日以細井貞雄手校本対校了　月舎主人 横山由清

830
107



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用